

文末の言語形式－疑問表現における丁寧度の要因－

中 島 悦 子

1 はじめに

話しことばでは、発話はずねに聞き手を意識する。特に聞き手との間にコミュニケーションを円滑に保たせようとする配慮がなされる。例えば聞き手に対して何らかの情報を要求する言語行動の場合、話し手は情報を得るためにもできるだけ丁寧な言語形式を使うという配慮をする。一般的に断定的で直接的な言語形式よりも断定を回避する間接的な言語形式の方が丁寧とされる。日本語ではこのような聞き手に対する配慮が文末の言語形式に反映されることが多い。

前稿（1995）では職場における女性の話しことばを文末の言語形式－依頼要求表現－に焦点をしぼり、その丁寧度の要因を話し手と聞き手との性関係、年齢関係、職場関係、入社年関係、親疎関係、付き合い年関係、会話量・接触量関係等に求めて調査分析した。

本稿は前稿を承けるものだが、文末の言語形式のうちの疑問表現を取り上げ、その丁寧度の要因を前稿と同じく、話し手と聞き手との関係、即ち性関係、年齢関係、入社年関係、親疎関係、付き合い年関係、接触量・会話量関係等の関連において調査分析することにする。本調査の資料は前稿と同じく「職場における女性の話しことば」（1994）における30代の女性の高校教員〔HI〕の録音データである。

分析に入る前に、今回使用したデータについてすこし述べておく。「職場における女性の話しことば」（1994）のデータベースは発話の単位切りの見直し、全資料の発話時間・発話量・文字表記の統一等について改正中であり、現時点では全員の資料のデータベース化が完成していない。そこで今回のデータは前稿で使用したデータと同じものをを用いた。なお、〔場面〕について

は本稿でも〔場面1〕（朝、会議、休憩）ではなく、〔場面2〕（打合わせ、小会議、休憩時雑談等）の方で処理することにする。

データに登場するインフォーマントである〔HI：高校教員 30代 女〕以外の発話者を挙げると次のようになる。

〔打合わせ〕

F：（高校教員 30代 男）

C：（生徒 10代 男）

〔小会議〕

M：（高校教員 50代 男）

E：（高校教員 50代 男）

Q：（高校教員 30代 女）

O：（高校教員 30代 男）

〔休憩時雑談〕

J：（元高校教員 60代 男）

G：（高校教員 40代 男）

T：（生徒 10代 女）

なお疑問形式のタイプを丁寧度の順位で示し、用例とデータの発話番号を付しておく。

疑問形式

1. 直接疑問形式

(1) 名詞（＋助詞）↑

(2) 動詞基本形↑

(3) ～っけ↑

(4) ～だな↑

(5) ～かい↑

(6) ～かな↑

(7) ～かしら（ね）↑

(8) ～ね↑

(9) ～（だ）よね↑

(10) ～（な）の↑

(11) ～って↑

用例 （ ）内は発話番号

わたし？（556）

どこに－書いてある？（307）

あれ、何回でしたっけ？（316）

ああ、数学でいいんだな？（262）

足りるかな？（465）

えっ？どなたかしら？（551）

委員会だけね？（253）

センセ、これってさー、やめちゃったか

らいんだよねー？（241）

部活は入ってなかったの？（255）

楠って－？（741）

- | | |
|---------------|--|
| (12) ～ずに↑ | 飯を食わ <u>ずに</u> ? (112) |
| (13) ～ない↑ | 楠知ら <u>ない</u> ? (740) |
| (14) ～ます↑ | あのー、準備ーの話は、ついでにし <u>ま</u>
<u>す</u> ? (544) |
| (15) ～ましたね↑ | えー、出席数わかり <u>ました</u> ねー? (542) |
| (16) ～ですね↑ | うーん、それゆえに、でないとだめ <u>です</u>
<u>ね</u> ? (438) |
| (17) ～でした↑ | 40回 <u>でした</u> ? (322) |
| (18) ～(ん)ですか↑ | はじめてな <u>ん</u> ですか? (653) |
| (19) ～ませんか↑ | あ、ちょっと、人数ゆっとき <u>ま</u> せんか?
(445) |

2. 間接疑問式

- | | |
|-------------------|--|
| (20) ～だろ↑ | それから、数学科でいい <u>んだろ</u> ? (257) |
| (21) ～でしょ(う)↑ | 遅刻になる <u>でしょ</u> ? (423) |
| (22) ～でしょうか↑ | |
| (23) ～(ん)じゃない↑ | やっぱ、生徒の常識としてわかってる
<u>んじゃない</u> ? (414) |
| (24) ～じゃないか↑ | |
| (25) ～(ん)じゃないの↑ | このまえ、なんか、…言ってた <u>んじゃない</u>
<u>いの</u> ? (311) |
| (26) ～じゃなくて↑ | 教室は今日 <u>じゃなくて</u> ? (273) |
| (27) ～(ん)じゃないすか↑ | でも、いー <u>んじゃないすか</u> ? (278) |
| (28) ～(ん)じゃないですか↑ | 両方とも、一緒になさる <u>んじゃないです</u>
<u>か</u> ? (467) |

上記について簡単に説明すると、疑問形式の丁寧度の強弱は間接性が最も低い(1)のレベルが最も丁寧度が弱く、間接性が最も高い(28)のレベルが最も丁寧度が高くなる。

名詞や動詞の基本形に直接上昇イントネーション(↑)を付加する形式や

「の」をつけて疑問を表す形式（「の」は「のだ」「のか」の「だ」「か」の省略形）、「です・ます」体に「か」をつけて疑問を表す形式等、(1)から(19)までのタイプは直接相手の意向を問うたり、相手に情報を求めたりする形式で、間接性の度合いの低いことから直接疑問形式と呼ぶことにする。(20)から(28)までのタイプは、「だろう」「でしょう」に上昇イントネーション「↑」や「か」をつける形式や否定形「ない」を付加する形式（例えば「んじゃないですか↑」）等がある。構文的には1 否定形「ない?」、2 蓋然性を表す「でしょう?」、3 疑問の終助詞「か」等の付加から成り立つ。つまり肯定の疑問形より否定の疑問形の方が、また間接的に相手の意向を問う「でしょうか?」形式の方がより婉曲的で丁寧度が強くなる。(20)から(28)までのタイプは断定を回避する間接的な表現となるので間接疑問形式と呼んでおく。

2 調査と分析

2. 1 疑問形式の丁寧度－場面差と性差

〈表1〉は疑問形式の場面別と男女別の使用数である。

〈表1〉

	打合わせ／小会議 (341)			休憩時雑談 (497)	
	H I (女)	他者(男)	他者(女)	H I (女)	他者(男)
1 直接疑問形式					
(1) 名詞 ↑	3	11		12	10
(2) 動詞基本形 ↑	1	2		1	
(3) ～ッケ ↑		1	1		
(4) ～ダナ ↑		1			
(5) ～カイ ↑					
(6) ～カナ ↑	1	2			
(7) ～カシラ (ネ) ↑	1			1	
(8) ～ネ ↑		3			
(9) ～(ダ)ヨネ ↑		2			
(10) ～(ナ)ノ ↑	3	5	1	1	4
(11) ～ッテ ↑				1	
(12) ～ズニ ↑					1
(13) ～ナイ ↑				1	2
(14) ～マス ↑		2			
(15) ～マシタネ ↑		1			
(16) ～デスネ ↑	1	2	1		
(17) ～デシタ ↑		1			
(18) (ン)デスカ ↑	2	1		6	4
(19) マセンカ ↑			2		
小 計	12(3.5%)	34(10.0%)	5(1.5%)	23(4.6%)	21(4.2%)
2 間接疑問形式					
(21) ～ダロ ↑		1			
(22) ～デショ(ウ) ↑	5			1	4
(23) ～デショウカ ↑					
(24) ～(ン)ジャナイ ↑	1				
(25) ～ジャナイカ ↑					
(26) ～(ン)ジャナイノ ↑		1	1		1
(27) ～ジャナクテ ↑	1				
(28) ～(ン)ジャナイスカ ↑	1				
(29) ～(ン)ジャナイデスカ ↑	1	1		1	
小 計	9(2.6%)	3(0.9%)	1(0.3%)	2(0.4%)	5(1.0%)

() 内の数字はそれぞれの総発話数、() 内の％は対総発話数比を示す。

談話に表される丁寧度は場面や性差等の要因に影響されると言われるが、〈表1〉の談話データによって実証的に検討する。

まず「場面差」による疑問形式を見る。直接疑問形式の使用は〔打合わ

せ／小会議]では男女合わせて51例、総発話数341に対する比率は14.9%であり、〔休憩時雑談〕では男女計44例、総発話数497に対する比率は8.9%となり、〔打合わせ／小会議〕における使用率の方が高いことが実証される。間接疑問形式の使用は〔打合わせ／小会議〕では男女計13例、対総発話数比3.8%、〔休憩時雑談〕では男女計7例、対総発話数比1.4%で、やはりその使用率は〔打合わせ／小会議〕の方が高くなっている。疑問形式の丁寧度の要因を場面と関連させて見てみると、丁寧度の高いとされる間接疑問形式の使用頻度はフォーマルな〔打合わせ／小会議〕の方がインフォーマルな〔休憩時雑談〕より高くなっている。この数値は一般的にフォーマルで改まり度の高い場面ほど丁寧度の高い言語形式が使用されるという仮説を裏付けるものとなる。しかしながら、丁寧度の低い直接疑問形式の使用頻度はフォーマリティの高い〔打合わせ／小会議〕の方が高く、フォーマリティの低い〔休憩時雑談〕の方が低くなっており、仮説に反する結果が得られている。談話全体の丁寧度の要因は場面ごとの使用頻度だけでは説明がつかないものと考えられる。

次に「男女差」による疑問形式の使用率を見ると、〔打合わせ／小会議〕における直接疑問形式の使用数は女性が17例、総発話数341に対する比率は4.9%、男性が34例、対総発話数比は10.0%と、その数比は圧倒的に男性の方が高い。これに対して〔休憩時雑談〕における直接疑問形式の使用数と対総発話数比は女性23例、4.6%、男性21例、4.2%であり、男女の差がない。

他方、間接疑問形式の使用傾向を見ると、〔打合わせ／小会議〕においては女性10例、対総発話数比は2.9%、男性3例、対総発話数比は0.9%となっており、女性の方が間接疑問形式を使用する傾向が高い。〔休憩時雑談〕においては女性が2例、0.4%、男性が5例、1.0%と、男女共に間接疑問形式があまり使用されていないことが伺われる。

そこで談話の丁寧度の要因を性差の面からとらえると、丁寧度の低い直接疑問形式の談話全体の使用頻度は男性の方が高く、女性の方が低い。反対に丁寧度の高い間接疑問形式の使用頻度は女性の方が高く、男性の方が低いという結果となっている。この結果は女性の方がより丁寧な言語形式を好むという仮説を実証するものとなっている。更に「場面」ごとの性差を見てみる

と、直接疑問形式の使用頻度は〔打合わせ／小会議〕では男性の方が高く、〔休憩時雑談〕では男女の差がない。間接疑問形式の使用頻度は〔打合わせ／小会議〕では女性の方が高く、〔休憩時雑談〕では男女共使用頻度が低い。丁寧度の低い直接疑問形式はフォーマリティの高い場面では男性に多く使用される傾向を示すが、フォーマリティの低い場面では女性も丁寧でない言語形式を多用し、男女差のないことが実証される。丁寧度の高い間接疑問形式の使用頻度はフォーマリティの高い場面では女性の方が高いという結果が出ているが、フォーマリティの低い場面での使用頻度は必ずしも女性の方が高くない。丁寧度の要因となる性差もフォーマルかインフォーマルかという改まり度に左右され、個々の使用頻度だけでは実証され得ないことが分かる。

2. 2 丁寧度の要因－話し手と聞き手との関係

疑問表現は相手に情報を求めたり、聞き手の意向を問うものだから、聞き手がこれに答え応じる言語行動をとることを話し手は期待する。話し手はさまざまなレベルの疑問形式のなかのどれかを選択して言語行動を行っているわけであるが、その言語行動を規定しているものは話し手と聞き手との関係である。即ち相手との年齢関係、職場関係、入社年関係、付き合い年関係、会話量関係、接触量関係等に基づいてどのレベルの丁寧度が選択されるかが決定される。ここでは談話単位レベルでの疑問表現とその応答のありかたを特に場面のなかでの聞き手との関係においてとらえてみたい。

〔小会議〕

(1) 発話 番号	内 容	話し手 ↓ 聞き手	性 関 係	年齢 関 係	職場 関 係	入社年 関 係	付き合い 年 関 係	接 触 量	会 話 量	親疎 関 係
379	それでこの進路部の一、 あのー1、2のプリントは一、生徒に配るん ですか？	M→H I	異	下	同僚	後後	5～9年	多	多	普通
380	いえ、あの1、2は一 保護者です。	H I→M	異	上	同僚	先先	5～9年	多	多	普通
381	保護者用？	M→H I	異	下	同僚	後後	5～9年	多	多	普通
382	今日の保護者用です。	E→M	同	同	同僚	先	5～9年	多	多	普通

「～んですか↑」という比較的丁寧度の高いレベルの疑問形式がフォーマルな場面で使用されている典型的な例である。「配るんですか？」という「～んですか↑」形式の使用はM（50代 男）による発話である。後輩であり、年齢も下であるH I（30代 女）に対して直接疑問形式の中では最上位レベルの「～んですか↑」が使用されている。この場合話し手Mにとって丁寧度を選択する要因は聞き手との関係よりもフォーマルな〔小会議〕という場面が最優先されているように思われる。しかし、ここではMの発話はそれまでのH Iの資料説明に対する質問として、H Iの発話を遮る形となって談話中に出現している。相手の発言を遮る談話パターンでは丁寧度の高い形式を用いることによって相手の感情を損なわないような配慮が意識されている。このような一種の聞き手に対する配慮、聞き手との心理的關係も話し手の丁寧度選択の要因となっている。

Mの発話による「保護者用？」という「名詞↑」形式は相手に問うというより、直前の「保護者」を受けた確認的反復に近い軽い反問の表現と見られる。

〔小会議〕

(2) 発話 番号	内 容	話し手 ↓ 聞き手	性 関 係	年齢 関 係	職場 関 係	入社年 関 係	付き合い 年 関 係	接 触 量	会 話 量	親疎 関 係
445	あ、ちょっと、人数ゆ つときませんかー？	Q→多数	？	*	*	*	*	*	*	*
446	人数をちょっとー、各 クラス言いませんか？	Q→多数	？	*	*	*	*	*	*	*
447	本日の父母会いきます。	M→多数	？	*	*	*	*	*	*	*
448	次ー	不明	？	*	*	*	*	*	*	*
449	うん。	Q→多数	？	*	*	*	*	*	*	*
450	どうします？	M→多数	？	*	*	*	*	*	*	*

直接疑問形式の中では丁寧度のレベルが高い疑問形式「～ませんか↑」の使用は2例ともQ（30代 女）の発話である。また「どうします？」という「ます↑」形式の使用1例はM（50代 男）の発話である。どちらも聞き手は特定の相手ではなく、多数であるから相手との性関係、年齢関係、付き合い年関係、親疎関係等全て不明である。〔小会議〕というフォーマルな場面

において聞き手との力関係が不明な場合、話し手はどのレベルの疑問形式を使用したらその場にふさわしいか全体を把握し判断しなければならない。多数である聞き手との関係が話し手にとって明確な判断基準にならない場合、丁寧度の高い直接疑問形式を使用するという無難な手だてをとっている。これも不明な相手に対する気配りの一種である。話し手と聞き手が対話形式ではなく、一対多数形式をとる場合には丁寧度の高い表現が使用されるという傾向が見られる。この場合話し手の丁寧度を選択する要因は聞き手が個人ではなく多数の場合ということになる。

[小会議]

(3) 発話 番号	内 容	話し手 ↓ 聞き手	性 関 係	年 齢 関 係	職 場 関 係	入 社 年 関 係	付 き 合 い 年 関 係	接 触 量	会 話 量	親 疎 関 係
422	遅刻になっちゃう?	O→多数	?	*	*	*	*	*	*	*
423	遅刻になるでしょ?	H I→O	異	同	同僚	同	5～9年	多	多	普通
424	学校遅刻になりますよ。	H I→O	異	同	同僚	同	5～9年	多	多	普通
425	途中で来なくなって、 自分は、もう、履修 しないってふうにしち ゃってても。 あ、そっか、1日の遅 刻ってこと?	Q→O	異	同	同僚	同	5～9年	*	*	*
426	うん。	O→多数	?	*	*	*	*	*	*	*
427	は、当然なるでしょ。	H I→O	異	同	同僚	同	5～9年	多	多	普通
428		H I→O	異	同	同僚	同	5～9年	多	多	普通

場面はフォーマルな〔小会議〕であるが、談話の前後はかなりリラックスした場となっており、発話者O（30代 男性）は聞き手が多数であっても動詞縮約形「～ちゃう↑」という丁寧度の低いくだけた表現を使って質問している。例(2)における女性話者のような聞き手との力関係が不明な場合に示す特別な気配りはここでは見られない。若い男性話者の聞き手への配慮という意識の欠如の反映であろうか。これに対してH Iは断定回避の「～でしょ↑」という比較的丁寧な形式で対応している。「遅刻ってこと?」という「名詞↑」の非丁寧形の使用も若い男性教師Oによるもので、聞き手は多数である。若い現代男性の待遇表現の使い分けの不十分さが会話表現に現れた

と見てよい。

〔小会議〕

(4) 発話 番号	内 容	話し手 ↓ 聞き手	性 関 係	年齢 関 係	職場 関 係	入社年 関 係	付き合い 年 関 係	接 触 量	会 話 量	親疎 関 係
354	学年では20、40、20…	E→多数	?	*	*	*	*	*	*	*
355	20、40?	M→E	同	同	同僚	先	5～9年	*	*	*
356	20。	Q→M	異	上上	同僚	後	5～9年	*	*	*
357	40ってゆうのは <u>早退</u> ?	M→Q	異	下下	同僚	先	5～9年	*	*	*
358	そうです。	Q→M	異	上上	同僚	後	5～9年	*	*	*
359	そうですねー。	E→M	同	同	同僚	先	5～9年	*	*	*
360	じゃあ、とにかく、40 って直して。	O→多数	?	*	*	*	*	*	*	*
361	じゃあ、この、点減っ てゆうふうに一、ファ ジーな表現がいい <u>んじ</u> <u>ゃないですか?</u>	H I→多数	?	*	*	*	*	*	*	*
362	さきざきなこと考え とそれでいすよ。	H I→多数	?	*	*	*	*	*	*	*

〔小会議〕におけるこの一連の談話には、丁寧度の低い「名詞↑」形と丁寧度の高い「～んじゃないですか↑」形式の混在が示されている。ここでは話し手の丁寧度を選択する要因が場面だけではなく、自分と相手との関係においてとらえられている。「40?」「早退?」はM(50代 男)の発話であるが、前者は50代の男性教師Eに対する発話、後者は30代女性教師Qに対する発話である。話し手Mと聞き手E・Qとの関係は、年齢関係が同じか下、入社年関係はどちらもMよりも後輩、付き合い年関係はどちらも5～9年と長い。丁寧度の低い「名詞↑」形式の使用は話し手の意識の中で聞き手を自分よりも下位関係に置いているからにはほかならない。話し手の丁寧度の選択は相手との関係の中でどれを最優先するかという話し手の心理判断に基づいて決定されるようだ。

「～んじゃないですか↑」という丁寧度の高い形式の使用は30代の女性教師H Iにおいて見られるが、これは多数に対する発話である。聞き手が多数の場合は比較的丁寧度の高い形式を選択するという女性に見られる配慮がこ

こにも示されている。つまり丁寧度の要因は聞き手が多数の場合、それに対する配慮、気配りということになる。

[打合わせ]

(5) 発話 番号	内 容	話し手 ↓ 聞き手	性 関 係	年齢 関 係	職場 関 係	入社年 関 係	付き合い 年 関 係	接 触 量	会 話 量	親疎 関 係
255	部活は入ってなかったの？	F→C	同	下下	生徒	無	2～4年	*	*	*
256	部活はやってなかった。	C→F	同	上上	先生	無	2～4年	*	*	*
257	それから、数学科でいいんだろ？	F→C	同	下下	生徒	無	2～4年	*	*	*
258	数学科ね？	F→C	同	下下	生徒	無	2～4年	*	*	*
259	はい。	C→F	同	上上	先生	無	2～4年	*	*	*
260	はい。	F→C	同	下下	生徒	無	2～4年	*	*	*
261	あの数学科でいいんだよね？	C→F	同	上上	先生	無	2～4年	*	*	*
262	ああ、数学でいいんだな？	F→C	同	下下	生徒	無	2～4年	*	*	*
263	はあ。	C→F	同	上上	先生	無	2～4年	*	*	*

朝の「打ち合わせ」における男性教師F（30代）と男子生徒Cとの対話である。発話者Fは最初Cに対して「入ってなかったの？」という「～の↑」形式で問いかけ、更に「数学科でいいんだろ？」という「～だろ↑」形式で質問を繰り返し、「数学科ね？」という「～ね↑」形式で反復確認し、「数学でいいんだな？」という「～だな↑」形式で再度念を押して問いかけている。話し手Fの聞き手Cに対する関係は性関係は同性、年齢関係は下、職場関係は先生と生徒という関係にある。全ての点においてFが上位にあるというFとCとの力関係がFに丁寧度の低い疑問形式を選択させる要因となっている。話し手と聞き手の力関係の差が丁寧度の選択に反映されているのである。

[休憩時雑談]

(6)	発話 番号	内 容	話し手 ↓ 聞き手	性 関 係	年 齢 関 係	職 場 関 係	入 社 年 関 係	付 き 合 い 年 関 係	接 触 量	会 話 量	親 疎 関 係
	211	なにに、 <u>今度?</u>	H I → F	異	上	同僚	先	2～4年	多	多	親
	212	バラってあれ2 回咲くの?	F → 多数	?	*	*	*	*	*	*	*
	213	ああそうそう、 あれー、…やつ でしょ?	G → F	同	上	同僚	先	2～4年	*	*	*
	214	あの一	G → F	同	上	同僚	先	2～4年	*	*	*
	215	いや、おんなじ 木がさ。	F → G	同	下	同僚	後	2～4年	*	*	*
	216	うんうんうん。	G → F	同	上	同僚	先	2～4年	*	*	*
	222	そーことあるね。 そういうもんな の?	F → G	同	下	同僚	後	2～4年	*	*	*
	223	花ってゆのは。	F → G	同	下	同僚	後	2～4年	*	*	*
	227	センセ今日いつ もねー、神社の 横通るんですけどー、いつもね ー、冬咲いてる のが咲いてた。	H I → G	異	上	同僚	先	5～9年	多	多	親
	228	木に咲いてる花 で、さざんかじ ゃないんだけど ねー。	H I → G	異	上	同僚	先	5～9年	多	多	親
	229	でも、さざんか じゃないの?	G → H I	異	下	同僚	後	5～9年	多	多	親
	230	あれ、さざんか かな、そしたら。	H I → G	異	上	同僚	先	5～9年	多	多	親

場面は親しい同僚同士のインフォーマルな朝の[休憩時]の雑談である。発話者H Iは異性であり年齢も上、入社年関係も先輩の聞き手Fに対して、丁寧度の低い「今度?」という「名詞↑」形式で対応している。対するFも「2回咲くの?」という「～の↑」形式で問い返している。これに対してGが「…やつでしょ?」という「～でしょ↑」形式を使用して、先輩Fと対応し、Fもまた「そういうもんなの?」という「～の↑」形式で後輩Gと対応している。Gはまた「さざんかじゃないの?」という「～じゃないの↑」形式でもって、異性であり、年齢は下、後輩のH Iに問を発し、H Iもまた「さざんかかな」という「～かな」形式でGに応答している。どの発話者も聞き手との性関係、年

年齢関係、入社年関係に左右されずに丁寧度の低い疑問形式を選択している。これは相手との間に距離を置かないで密接な関係を保とうとする心理的な意識が話し手に強く働いているからであろう。この場合話し手の丁寧度を選択する意識の中では聞き手との性関係や年齢・職場の上下関係よりも接触量関係、会話量関係、親疎関係の方が優先されていると言ってよい。

【休憩時雑談】

(7) 発話番号	内 容	話し手 ↓ 聞き手	性 関 係	年 齢 関 係	職 場 関 係	入 社 年 関 係	付き合い 年 関 係	接 触 量	会 話 量	親 疎 関 係
546	いますよ、あ、どなたですか？	H I → 不明	?	*	*	*	*	*	*	*
547	あっ、どなた…で？	H I → 不明	?	*	*	*	*	*	*	*
548	生徒？	H I → 不明	?	*	*	*	*	*	*	*
549	ううん。	不明女	?	*	*	*	*	*	*	*
550	…の方？	H I → 不明	?	*	*	*	*	*	*	*
551	えっ？どなたかしら？	H I → 不明	?	*	*	*	*	*	*	*
552	あっびっくりしました。	H I → J	異	上上	元同僚	先先	5～9年	多	多	親
556	わたし？	H I → T	同	下下	生徒	無	1～2年	多	多	普通
557	△△先生は？	T → H I	同	上上	先生	無	1～2年	*	*	*
558	△△先生は一あっちの方、ちょっと見てみて、印刷室とか。	H I → T	同	下下	生徒	無	1～2年	多	多	普通
559	今日はずいぶん静か。	J → H I	異	下下	元同僚	後後	5～9年	多	多	親
560	ええ、今日からテスト一週間前なんです。	H I → J	異	上上	元同僚	先先	5～9年	多	多	親
561	いやいや、先日はどうも。	J → H I	異	下下	元同僚	後後	5～9年	多	多	親
562	いや、こちらこそ	H I → J	異	上上	元同僚	先先	5～9年	多	多	親
563	えっー、先生、どっ、いらしゃったんですね。	H I → J	異	上上	元同僚	先先	5～9年	多	多	親
564	えっ？	J → H I	異	下下	元同僚	後後	5～9年	多	多	親
565	あの一、ちょっとそこまで用事があって来て…そうだ、今日は一、たぶんもう一、静かだろうって、学校が…。	J → H I	異	下下	元同僚	後後	5～9年	多	多	親
566	あーあ、先生、一週間は今日からです。	H I → J	異	上上	元同僚	先先	5～9年	多	多	親
567	いい勘でしたよね。	J → H I	異	下下	元同僚	後後	5～9年	多	多	親
569	いやー、でもなんか、色が白くなったような。	H I → J	異	上上	元同僚	先先	5～9年	多	多	親
570	そうですか？	J → H I	異	下下	元同僚	後後	5～9年	多	多	親

上例は、[休憩時雑談]においてインフォーマントである30代の女性教師H Iが女生徒T及び60代の元男性教師Jとの間に交した会話の一部である。H Iが力関係が下である女生徒と力関係が上である元男性教師に対してことばをどのように使い分けているかが明示的に示されている。

H Iの発話の流れを見ると、まず相手が不明な場合は「どなたですか?」という非常に丁寧な疑問形式を使って問いを発し、続いて「どなたで?」という反復表現の疑問形式で念を押しているが、相手が生徒かもしれないと思うと「生徒?」と急にぞんざいな疑問表現になっている。しかし生徒でないことが分かるとすぐ「～の方?」「どなたかしら?」という丁寧な表現に戻る。更に現れた元教師Jに対しては丁寧度の高い「デス・マス」体を使用し、女生徒に対しては「わたし?」という最も丁寧度の低い言語形式で対応している。

ここでは話し手であるH Iのことばの丁寧度の使い分けが聞き手との関係で明白に変化する様が見てとれる。自分と相手との関係が生徒のように下位にある場合は丁寧度の低い言語形式を、先輩である元同僚Jのように自分との関係が上位にあると判断した場合は丁寧度の高い言語形式を使用している。また注目すべきことはここにおいても相手が不明な場合は丁寧な言語形式が使われていることである。相手が分からない時はとりあえず丁寧なことばを選択するという配慮が女性の発話者に見てとれる。

3 おわりに

疑問形式の丁寧度の要因を談話単位レベルにおいて観察した結果、次のようなことが言えるかと思う。丁寧度の有効性を左右する要因はフォーマルかインフォーマルかという類型的な場面だけでは決定されにくい。また聞き手との関係も丁寧度を決定する要因としては有効ではあるが、ケース毎に多種多様で、類型・定型が求めにくい。多くの疑問形式の中のどの一つを選択するかは話し手の相手に対する心理的な関係に反映されると考えられる。聞き手との関係において、性関係、年齢関係、付き合い年関係、入社年関係、接触量関係、会話量関係、親疎関係の要因のうち、どれが最優先されて丁寧度

を左右するののかということもすべて話し手の判断や意識にまかせられている。つまりどのレベルの表現形式を選択するかは話し手の責任において決定されると言える。

【参考文献】

井出 祥子（1982）「待遇表現と男女差の比較」『日英語比較講座 5』大修館書店

井出 祥子他（1986）『日本人とアメリカ人の敬語行動』南雲堂

内田 伸子（1993）「会話行動に見られる性差」『世界の女性語 日本の女性語』
『日本語学』5月臨時増刊号

現代日本語研究会（1994）『職場における女性の話しことば』財団法人東京女
性財団1993年度助成研究報告書

中島 悦子（1995）「文末表現－依頼要求表現と丁寧度の要因」『ことば』16号
現代日本語研究会

水谷 信子（1985）『日英語 話しことばの文法』くろしお出版